第3回　泉大津市ワークショップ 【Aグループ】

運営体制

骨太の方針について

・市民参加型は良い
・市民の参加は必要

課題

・旭小の場合、生涯学習課で予約
・利用の前日に学校からカギを借りている

・社会人中心のクラブ等の活動時間は、土日・夜間が中心となる

→

・土日、夜間のセキュリティやカギの管理はどうするか
・カギを管理すると市民に責任がともなうが、ボランティアがカギを管理することはできるか？

→

・管理する市民の負担が大きくなることは避けるべき
・使いたいと思っても負担が大きいと、使うのに気が引ける

・管理人が必要になるのでは？
・学校としても顔の見える関係だと安心

→

技術などで対策

・民泊のようにワンタイムパスワードで入れるようにするなど、技術導入で負担軽減

機能・サービス

課題

・「営利目的」の定義がわからない
・活動に実費がかかるのを、参加者に費用を負担してもらうのは営利ではない

→

・できる範囲で基準を示せないか

情報発信

具体的な取組例

地域交流ゾーンでの社会人と児童・生徒との交流
・社会人と子どもがふれあえる場づくりができれば良い

本の読み聞かせのイベント
・「ブックランドあさひ」ではイベントをすると、多くの子どもが参加する

課題

→

・土日や夜に交流できるよう、学校とクラブ団体の歩みよりが必要

→

・他の校区では、この活動のことが知られていない
・地域交流ゾーンをつくるのとあわせて、地域と連携が必要では？

→

・活動団体と活動団体のネットワークができれば良い
・横のつながりができればよい

↓

・ネットワークの中心となる組織は必要

↓

活動団体などへの支援機能が必要

・施設を使いたい人のために相談できる窓口が必要
・おづプラザの支援センターがサポートできるか

建物・設備

具体的な取組例

・中心的な位置に拠点があってよい
・複合的なものが中心にあるのが良い
⇒窓口機能、市民ホールのような機能、防災機能 など

→

課題

・お金がかかるので、バランスが必要

第3回　泉大津市ワークショップ【Bグループ】

	骨太の方針	具体的な取組例	課題
ビジョンの明確化	・地域交流ゾーン →コミュスク、小・中活用 ・文化交流施設の新設 →コミュニティホールのような整理が必要ではないか ・「学びの場」の具体的なビジョンが必要		• 運営や管理をするための予算の確保
運営体制	• 市民が参加できる運営スタイルは理解。 • 市民参加と言ってもボランティアに頼るだけではダメ。 • サラリーが発生しても使える予算を確保	**組織整備・人材の確保** • 利用を促す運営人材（ソフト）もあわせて準備すべき • コミュスクの運営に民間企業の力を活用しては。 • コミュスクの運営には市域内の一括運営が必要ではないか。各地域交流ゾーンの情報が一覧できると良い。	• 交流ゾーンは数が多いので運営を担う人材が必要 • 仕事として責任を持って管理して頂ける環境整備が必要。（人材の育成や組織管理）
		システム等の導入 • 一括管理システムは整備するべき	• セキュリティ、受付、告知等はシステム化で省力、効率化が可能ではないか
機能・設備	• 新たに整備するのであればしっかりした機能を準備して欲しい。 • 交流ゾーンが担えない分野を洗い出し、新規施設に担わせるべき • 中規模の公民館的なものを整備するなら地域交流ゾーンに予算を確保しては？	• 商業的な取組は拠点施設での実施が望ましい。チャレンジショップなどを新施設に設けては。 • 新設するなら文化・芸術の拠点的なものが必要ではないか。 • 店舗を交流ゾーンに誘致する等も面白いのではないか。交流ゾーンをかして店舗のプレ運営をしてもよい。 • 交流ゾーンが整備される前にも学校を開放していけないか。 • 地域の施設には和室がほしい。 • 地域内で不足している設備、環境を交流ゾーンに持たしてはどうか。	**市域内のゾーニング** • 市民の活動は各小学校の校区で行われることが多いので小学校での集いの場が必要ではないか。 • 同じ地域交流ゾーンでも中学校と小学校では位置付けが異なっても良いのでは。

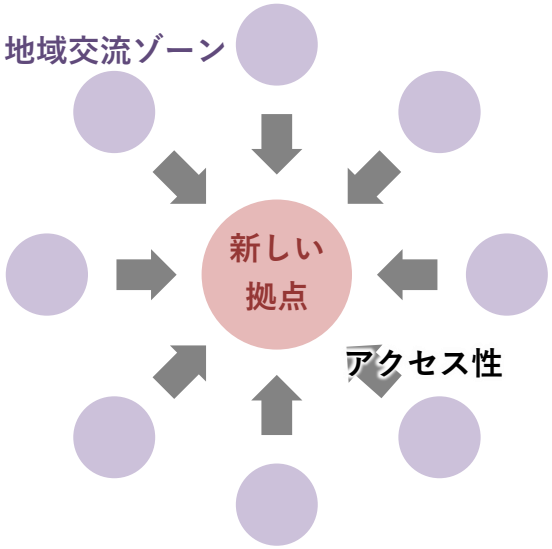
第3回　泉大津市ワークショップ【Cグループ】

	骨太の方針	具体的な取組例	課題
運営体制・機能・サービス・ルール	• 館長中心の運営から、利用者の自主的な運営へ	**自主的な運営体制のポイント** • 多様な意見を取り入れるために、従来の利用者だけでなく、様々な年代、様々なジャンルの方が参加する運営体制が望ましい	• 代表者の負担が大きいことを懸念 • 自主運営をサポートする公共の役割が重要（公共と利用者の役割分担） • 柔軟なルール変更は良いが頻繁に変わると分かりづらいので、一定のマニュアルは必要である
		誰が運営を担う？ • 様々なスキルを持っているため、泉大津市の教員ＯＢも協力できる可能性がある ➡管理職よりも、現場の教員OBの方が適任	• 有償のスタッフとボランティアのスタッフが一緒に活動できるのか
		市民が先生として活躍する • 先生として講座を開きたい市民が、取り組みやすい仕組み・サポート体制があるとよい • 市民主催の講座は参加しやすい	
情報発信		**将来を見据えた情報発信** • 10年後の次世代を見据えたSNSの活用 • 広報誌よりも、SNSやデジタルに投資すべき • YouTubeでクラブ活動を紹介	**もっと現状分析が必要** • 関心の無い人へアプローチ方法、関心ごとについて、もっと分析・検討する必要がある • 参加したい講座が参加できる時間にやっていない場合も
建物設備	• 1か所集約の場合、アクセスが悪くなることを懸念	• 現在のクラブが切れ目なく活動できる場が必要 • 地域交流ゾーンが日中にも使える必要がある	• 整備のタイミングによって、現在の施設を修繕すべきか判断が難しい、クラブの備品を購入するかどうかも悩ましい ➡早期の整備スケジュールの提示が必要 • 子どもたちの安全・個人情報への配慮が必要

第3回　泉大津市ワークショップ【Dグループ】

	具体的な取組例	課題
運営体制	**運営の担い手** • 有償ボランティア • 「館長」の市民公募	• 誰が運営を担う？運営を担う市民を集められるか？ • 地域交流ゾーンの管理を学校とどう分けるか。ごみの片付け等 • 有償ボランティアの場合は、「お金をもらっているんだから！」と文句を言われる？ →市民の感謝が感じられるかがポイント • 既存施設の運営の総括も必要 • 館長のマネジメント
情報発信	• スキルのある人を集めるための情報発信、仕組みづくり **オープンなイメージ** • 長寿園・自治会館はオープンなイメージなし→各施設の情報発信必要 • 誰でも使えるイメージ訴求が大切	• 年代によって学校は使いにくいのでは？
建物設備	**セキュリティ** • 地域の人が学校に入る際の管理 • 門番が必要？ • 入館チェックシステム	• 地域交流ゾーンのセキュリティ • 不特定多数の侵入が気がかり
立地など	**アクセス** • 歩いても行けるところに。誰もが気軽に立ち寄れる場所がほしい • アクセス性向上（例：巡回バス）	• 施設へのアクセスが課題 • 新しい拠点施設はどこに？良い落とし所は？

新しい拠点・地域交流ゾーンをそれぞれどう充実させるか



各施設をどうつなぐか？→今後検討

- 新しい施設・地域交流ゾーンの充実
- 地域交流ゾーンの多様性が必要（サロンも兼用など）
- 新しい施設の利用度は高くならなければいけない

第3回　泉大津市ワークショップ【Wグループ】

建物・設備

新しい拠点施設

骨太の方針について

- 市域が長細いため、市域ごとに集まれる場があった方が良い
- 今のままの公民館・勤労青少年ホームを使うかは別

課題

- 登録クラブが全て一か所で活動できるか
- 遠くなることで使わなくなるかもしれないので、遠くなる分、足の確保が必要
- 一つにすることによるデメリットを解消する必要あり

地域交流ゾーン

骨太の方針について

- 地域交流ゾーンで、地域住民と子どもが交流できるのは良い
- 地域交流ゾーンは、公民館の再編等とは別の観点でも必要

課題

- セキュリティの問題は、しっかり対策する必要あり

運営体制

骨太の方針について

- 地域交流ゾーンは、地域が使うにあたり、地域も運営に参加する必要がある
- 学校に負担をかけてばかりではいけない

「未来の学びの場」について留意点

- 幅広い、新しい利用者の利用しやすさを求めるのか、今活動されている方にとっても活動しやすさを求めるのか、ターゲットの設定が必要ではないか

情報発信

具体的な取組例

- 「おづみんエキスポ」は面白い、やってみたい
- 新しく泉大津市に住む人、子ども、学生に興味をもってもらえる

課題

- 運営の中心を誰が担うか
- 中心的な組織が必要

サービス・機能

骨太の方針について

- 市民が「先生」は良い
- 知られていないだけで、すごい人はたくさんいる

↓

- 子どもに活動について教えることができる
- 地域が子どもを育てていくというのが良い
- 授業の中で「ちょっと教える」という参加もできる
- 学校で公演すると反響が大きい

- 高齢者と若者がもっと交流をするのが良い

課題

- 中学校ではキャリア教育として外から呼んでくること多い
- 現役世代は地域から呼ぶことは少ない

↓

- 学校としては「地域」との連携を目指すかどうか、方針が必要

↓

- 地域に財産（人財）があることは大事
- 地元出身の方が愛着がある
- 地域で見知った方のほうがお願いしやすい

- 市吹の活動は参考になる

第3回　泉大津市ワークショップ 【Xグループ】

骨太の方針

コンセプトやニーズの把握

- 複数の施設を整備していく中で全部が中途半端になることを危惧している。
- 新設予定の施設と地域交流ゾーンの目的の違いを示す必要がある。
- 既存施設の利用者に地域交流ゾーンへの移行ニーズをしっかり聞くべきである。
- 施設が出来てから使ってくださいでは、実際のニーズとの乖離が生じる懸念がある。

機能・場所

- 既存施設の利用者の視点では、既存の施設が使えなくなるのであれば拠点施設の整備は必須。1つに集約するのであれば可能な限り広さが必要（そこでしかダメな団体、時間帯があるため）
- 職場(学校)でも家でもない第三の場所を市民に提供するという示し方が良いのでは。

具体的な取組例

ニーズ把握

- 地域交流ゾーンを順次整備する段階で団体などのニーズを盛り込むことも検討してはどうか。
- 交流ゾーンや新設予定の施設への移行ニーズをしっかり聞く機会を設けるべきである。（アンケートやヒアリング等）
- ニーズ把握をした上であれば市民もその結果に責任をもつのではないか？

運営

- 運営に関わる人材を活動している団体から募る等も検討すべきである。
- 市民に参加してもらう場合も、短期的な人数確保ではなく、中長期的に関わってもらえるよう、報酬や組織作りの仕組みを検討してほしい。
- 各施設の利用状況とや人の流れを把握できないか。

用途・機能

- 各施設には活動に使う機材などをおけるスペースがあると望ましい。
- 目的によっては賃貸やプレハブで環境を整備することを検討してはどうか。

課題

運営窓口の整備

- 施設を整備するのに併せて、問い合わせや情報発信の窓口を整備する必要がる。

機能・設備

- 各施設単独の運営ではなく、施設相互で交流が生まれるような方策が必要。
- 市域内には発表の場が限られているため、そのような環境を用意することも重要ではないか。

第3回　泉大津市ワークショップ【Yグループ】

	具体的な取組例	課題
運営体制・機能・サービス・ルール	**柔軟性、可変性のある体制・ルール** • 使いながらより使いやすい方法、仕組みづくりに変えられる方がよい • 社会実験的に使いながら良い方法を探っていく事が重要	
	誰が運営を担う？ • 常時管理人が必要になるのでは？ ➡管理人が毎日見回りする必要があるのでは ➡予約のしやすさ、使いやすさのためにも管理人は必要	• ボランティアでは負担が大きいため、スタッフへの報酬が必要
	• 校区ごとにある自治会が輪番制で管理、運営する • 利用者を登録してカードタッチで開錠するシステムなど、機械やITの導入等で人手をかけずに対応できる方法も？	• 人を新たに雇うためには予算が必要 ➡営利団体への貸し出しを増やすなど、新たにお金を生む仕組み、仕掛けが必要
建物設備	**各施設の役割分担** • 各施設（拠点施設と地域交流ゾーン、それぞれの地域交流ゾーン）のすみわけ、役割分担が必要 ➡例：大きい団体は拠点施設、小さい団体は地域交流ゾーン	
	必要なスペース、使いやすいスペース • 防音設備のある部屋は必須 • クラブ活動用の倉庫スペースが必要	【地域交流ゾーン】 • 気軽に入りやすい施設、分かりやすい動線が必須
	• 天井が高いと使い方の幅が広がる • 旭・多目的室のような少し広めのホールが使いやすい ➡パーテーションで区切れるとなお良い	【事例：ブックランド旭】 • 地域の運営ボランティアが100名（20名/回×5班の体制） • 図書室だけでは人が集まらないため、イベントを同時開催 • 学校を通じて、地域の子どもへイベントなどを案内 • 現在は、子ども向けのイベントのみを実施
	• 日常的に使える、気軽に立ち寄れるスペース ➡健康器具、トレーニング器具　等	

第3回　泉大津市ワークショップ【Zグループ】

	骨太の方針	具体的な取組例	課題
運営体制・機能・サービス		**運営の負担減** • オンライン運営チーム、オンラインプログラム • 時間を気にせず取組に参加できるようグループチャットなどを使う	• 運営側の負担減
		スタッフ・講師の質の確保 • スタッフ研修→一定の水準の確保 • 慎重な人材の選定（誰でも良いわけではない） • 講習を受けた人が講師になる	• 誰がスタッフになるか。すべてボランティアは難しい • スタッフの資格・スキル • 教える人の”質”の確保 • 新しい拠点施設には、ハブとしての場所・人が必要
利用ルール		**子どもに使いやすく** • 子どもは無条件に自由に無料で使えること⇔大人・クラブは有料 • 現状、子どもが使いにくい理由（社会教育であること、申請書が必要） • 宿題等で部屋を借りられる→居場所づくり • 家以外で子どもが集まり活動・遊べる場	
発信		• 乳幼児向け設備・スペース等、目玉・売りがほしい • ゲームコーナー（例：メルボルンの図書館） • 出入りが自由なロビー、広いロビー	• 新しい拠点施設の運営効率化・稼働率向上
建物設備	**拠点施設の役割** • 拠点性とは何か整理 • 拠点施設と地域交流ゾーンの違い • 集約した施設が必要 • 同じような講座やクラブを統一できる • 設備を充実できる	• 施設的にホールを作る（1000人程度） • 集客する場合、駐車場の用意が必要。 • 音楽室など、稼働の高い施設の充実を！ • Wi-Fi、防音設備	• 地域交流ゾーンの災害時の避難場所としての活用→授業の早期再開を可能に • 教育支援センターの在り方も検討